

自らの健康に関心をもち、考え実践する 子供の育成

～予防歯科の取組を通して～

始良市立柁城小学校

養護教諭 濱畑 千明

1 はじめに

本校は児童数 449 人、特別支援学級 8 学級を含む 22 学級の学校である。創立 153 年目を迎え、伝統を大切にしつつ「新たな時代に対応できる確かな学力を身に付け 心豊かでたくましく生きる子供の育成」を学校教育目標に掲げ、これからの時代に必要な資質・能力の育成を目指し、日々教育活動を行っている。

2 児童の実態

＜本校の歯科健康診断結果＞

		R4 年度	R5 年度	R6 年度
未処置歯	治療率	60.3%	57.8%	—
	保有率	23.4%	24.8%	20.6%
むし歯のない児童 (乳歯＋永久歯) 小 6		45.5%	46.7%	67.1%

※ 令和 6 年度の未処置歯のある児童の割合は、全国平均 12.7%と比較し高い傾向にある。

※ むし歯のない児童は、増加傾向にあるが、全国（中 1）74%に比べると低い。

3 テーマ設定の理由

歯・口の健康づくりの意識向上のため、予防歯科の視点から、保健委員会活動の充実や児童、保護者対象の学校保健委員会での歯科講話の実施など、活動の幅を広げてきた。

家庭の意識向上を図るとともに、児童が自身の健康について考える機会を意図的、計画的に設けることで、生涯にわたり主体的に歯と口の健康を保つ態度を育むことが重要だと考え、本主題を設定した。

4 取組の実際

(1) 歯科健康診断時の取組

【事前の取組】

ア 担任による指導

自分の歯の状態への関心を高めるため健

診のねらいについてパワーポイント資料を用いた事前指導を担当が行った。

【事後の取組】

ア 診断結果の配布

治療期間を確保するため、結果のお知らせを早期発行できるように工夫した。

また、学級 P T A や長期休業前に配布(年 4 回)することで、児童や保護者の意識向上を図った。

※『「生きる力」を育む学校での歯・口の健康づくり』日本学校保健会 P129

イ 啓発資料の作成

6 年生まで

むし歯のない

児童を対象に

家庭での予防

法等について



アンケートを実施し、その結果を保健便りや学級 P T A、掲示板で紹介した。また、同児童への表彰も行った。

ウ 健康相談

検診結果から個別に相談の必要な児童に対しては、養護教諭が保健室で個別指導を行ったり、担任が教育相談等で保護者への啓発を図ったりした。

(2) 「歯と口の健康教室」に関する取組

ア 学校歯科医等による「歯と口の健康教室」

全学年を対象に学校歯科医等による授業を実施し、発達段階に応じた専門的な指導を行うことで意識の向上を図った。

学年	指 導 内 容
1 ～ 3 年	むし歯の仕組み、自分の歯の様子を見る、ブラッシング指導 等
4 年	むし歯の仕組み・歯肉炎、日常生活の癖、正しい舌の位置、お口の体操 等
5 年	食事（おやつ）との関係・歯肉炎、正しい姿勢 等
6 年	むし歯・歯肉炎、日常生活で気を付けたいこと（食事等の取り方、姿勢）等

イ「歯と口の健康教室」後の取組

(ア) 歯みがきチェックカードの実施

指導後3日間、歯磨きチェックカードを配布した。3年生以上には「自分で考えた目標」を記入する欄を設け自分の歯の状態へ関心を高められるようにした。

(イ) 保健便りでの活動報告

児童の感想等を保健便りに掲載し、活動の振り返りができるようにした。

(3) 児童保健委員会の取組

ア 保健委員会クイズ

学年に合わせた3種類の歯の健康に関するクイズをロイロノートで作成し、各学級ゲームモードで実施した。学級上位の児童には保健室キャラクター入りのキーホルダーや賞状を贈った。



【クイズ1位の児童を表彰】

イ 歯ブラシチェック

11月の「いい歯の日」に合わせ、1・2年生の教室を分担して訪問し、歯ブラシのチェックを行った。結果は児童から担任に伝え、指導や対応をお願いした。

(4) 学校保健委員会の取組

親子で考える機会となるよう、学校保健委員会と5年生の「歯と口の健康教室」を合同で開催した。実施後は、「PTA保体部便り」を作成し、学級PTAの際に各学級の保体部長から報告していただいた。



【5年 歯と口の健康教室】

<保護者感想>

砂糖の害やむし歯、歯周病について、詳しく理解できました。5年生が前のめりになって話を聴く姿勢がいいなと思いました。

(5) その他の取組

ア 学級PTAでの啓発

歯の健康に関する資料を学校歯科医に提供していただき、PTAで活用することで、家庭での取組の充実を図った。

イ 「歯と口の健康クイズ」の実施

加治木・蒲生養護教諭部会作成のクイズをロイロノートWebカードで配布することで、楽しみながら歯の健康への理解を深める姿が見られた。

5 成果と課題

(1) 成果

ア 予防歯科の取組を充実させることで、治療率の向上が見られた。

イ 学校歯科医やPTA保体部と連携することで、実態に即した取組や啓発活動を行うことができた。

ウ 保健委員会の児童と楽しく学べる方法を考えることで、児童の提案を基にした主体的な活動が見られるようになった。

(2) 課題

ア 給食後の歯磨きなど児童が主体的に行動できるよう継続した指導を行いたい。

イ むし歯のない児童にも目を向けた予防歯科の視点からの取組の継続及び実態調査を基にした改善を進めていきたい。

6 おわりに

予防歯科の視点から、児童保健委員会を中心とした児童の主体的な活動を促す取組や学校歯科医と連携した啓発活動を行ったことにより、児童・保護者の関心が高まり、学校・家庭が一体となった取組が展開できた。

今後も家庭との連携は必要不可欠であるため、情報発信を継続し、担任や校医と連携しながら取組の充実を進めていきたい。